

EUR / JPY ユーロ円 月次レポート

前月振り返りと2026年9月の相場展望

発行日

September 1, 2026

対象期間

8月実績 / 9月展望

通貨ペア

EUR / JPY

発行頻度

Monthly

8月末レート（終値）

185.569

+2.04%（8月月間騰落率）

8月高値

186.016

8月安値

179.349

ECB金利

2.25%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

8月は181.86円からスタートし、185.57円まで上昇して引け、月間+2.04%となった。ECBの追加利上げ観測を背景にユーロが底堅く推移した

ECBは8月に理事会がなかった。7月議事要旨（8/27公表）で「7月の据え置きは引き締め終了を意味しない」と明記され、9月の追加利上げ観測が意識された

日銀は8月に会合がなく、政策金利は1.00%で継続。8/27に氷見野副総裁が9月会合を含む毎回の会合で利上げを検討していく旨を述べたが、円への影響は限定的だった

ECBの追加利上げ観測と日銀の現状維持が重なり、欧日金利差の拡大観測がユーロ円を下支えた

9月 基本シナリオ レンジ

181 – 189円

ECBは9/10、日銀は9/17-18に会合。両中銀の決定が方向性を左右

欧日政策金利差

1.25pp

ECB預金金利2.25% – BOJ1.00%。前月と同水準

始値

181.863

8月最初の取引日

高値

186.016

月中最高値

安値

179.349

月中最安値

月間騰落

+2.04%

+3.706円

8月の相場動向

8月のユーロ円は**181.86円**でスタートし、**186.02円**まで**上昇する場面もあった**。ECBの7月議事要旨（8/27公表）では、7月の据え置きが引き締めサイクルの終了を意味するものではないことが示唆され、9月の追加利上げ観測がユーロを支えた。

日銀は8月に会合がなかったが、**8/27に氷見野副総裁が9月会合を含め毎回の会合で利上げをしっかりと検討していくと述べ**、物価の上振れリスクに言及した。ただ、市場ではECBの追加利上げ観測が円高圧力を上回ったとみられ、ユーロ円は月末にかけて**185.57円**で引け、**月間+2.04%**となった。

主要イベントの影響

EU ECB / 8月は会合なし・7月議事要旨

8月はECB理事会が開催されなかった（次回9/10）

7月議事要旨（8/27公表）で「7月の据え置きは引き締めサイクルの終了を意味しない」と明記

インフレ見通しが改善しなければ9月の追加利上げもありうることが示唆された

JP 日銀 / 8月は会合なし・要人発言

8月は金融政策決定会合が開催されなかった（8月は年間スケジュール上の会合月ではない）

8月27日、氷見野副総裁は埼玉県での講演・記者会見で、物価の上振れリスクをこれまで以上に意識する必要があるとし、9月会合を含め毎回の会合で利上げについてしっかりと検討していくと述べた

現行の政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）は1.00%で継続。次回会合は9/17-18

8月の総括

8月はECBの追加利上げ観測がユーロを支えた月となった。7月議事要旨が「引き締めサイクルの終了を意味しない」と明記したことで9月の利上げ観測が意識され、ユーロ円は月間+2.04%と上昇した。日銀は8月に会合がなく、市場では氷見野副総裁の発言を9月利上げに向けた地ならしと受け止める向きもあったが、円への影響はユーロの上昇を打ち消すには至らなかった。9月はECBと日銀の会合が相次ぎ、方向性を見極めやすい局面となりうる。

9月の注目ポイント

9月は①ECB理事会（9/10）と②日銀会合（9/17-18）が相次ぐ。ECBが追加利上げに踏み切ればユーロが買われやすくなる一方、日銀が追加利上げを実施すれば円高要因となり、ユーロ円は方向感を探る展開となる可能性がある。エネルギー価格や欧州・日本のインフレ指標が両中銀の判断に影響するとみられる。

シナリオ別レンジ予測

強気	30%	ECBが追加利上げ、日銀が据え置きで欧日金利差拡大	185 – 192円
基本	50%	ECB・日銀ともに市場予想の範囲内でレンジ推移	181 – 189円
弱気	20%	日銀が利上げ、またはECBが慎重姿勢でユーロ円下落	176 – 183円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
ECBの9月追加利上げ（9/10）	中	ユーロ高	追加利上げなら欧日金利差が拡大し、ユーロが買われやすい
日銀の9月追加利上げ（9/17-18）	中	円高	追加利上げなら金利差縮小を意識した円買いが強まりやすい
ユーロ圏インフレの再加速	中	ユーロ高	エネルギー高等でインフレが加速すればECBの追加引き締め観測が強まる
ユーロ圏景気の下振れ	中	ユーロ安	景気減速が意識されればECBの引き締め余地が後退しユーロ売りに

9月の見通し

基本シナリオは**181～189円のレンジ**とみている。9月はECBと日銀の会合が相次ぎ、両中銀の決定次第で方向性を見極めやすい局面となりうる。ECBが追加利上げ、日銀が据え置きとなればユーロ円は上昇しやすく、逆の組み合わせなら下押し圧力が強まりやすい。エネルギー価格と両通貨圏のインフレ指標に注意したい。

用語解説

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏21カ国の中央銀行。8月は会合なし。7月議事要旨で9月の追加利上げ可能性を示唆。次回9/10。

クロス円

米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。ユーロ円はドル円とユーロドルの動きに影響を受けやすい。

為替介入

政府・中央銀行が急激な為替変動を抑えるために外為市場で売買を行うこと。日本では財務省が権限を持つ。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。8月は会合なし。氷見野副総裁は9月会合を含む毎回の会合で利上げを検討する旨を述べた。次回9/17-18。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。ECB預金金利2.25%とBOJ1.00%の差は1.25pp。

HICP

ユーロ圏の消費者物価指数。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。ユーロスタット（Eurostat）が発表する速報値・確報値があり、数値は改定されることがある。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。